令和4年度　東久留米市立　　学校評価報告書

学校教育目標	○「心あたたかく」 他者を受け入れる心豊かな児童の育成 ○「光り輝け」 自己実現を果たし自信を付ける児童の育成 ○「稲穂のように」 自己決定をし、粘り強く取り組む児童の育成	教育ビジョン	【目指す学校像】・子供にとって楽しい学校　・地域に学び、愛される学校
			【目指す児童・生徒像】・あいさつができ、ありがとうが言える子供　・夢や希望をもち、主体的に学ぶ子供
			【目指す教師像】・子供を大切にする教師　・希望を語り、学び続ける教師　・組織として力を合わせる教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	・コロナ禍により様々な活動の制限はあったが、GIGA端末の導入に伴いICTの教員研修を複数回実施することができた。その結果、複数学級で学級閉鎖が出た際にも、リモートによる授業を円滑に進めることができた。今後は、より効果的なICTの活用を模索し、更なる活用推進を図る。 ・感染症対策を講じながら、運動会、学芸会、6年生を送る会などの大きな行事を実施することができ、保護者にも高い評価を受け、子供たちの自己肯定感につながる大きな成果を得た。今後も、教育活動全体を通じて自己肯定感、自己有用感の醸成や、子供たちの心身の健康に関わる取組を続ける。		

東久留米市第2次教育振興基本計画				中期経営目標	短期経営目標	評価指標・評価基準		自己評価		学校関係者評価		次年度の方策
№.	四つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」	（令和6年度までの3年間）	（1年間）	取組指標	成果指標	取組	成果	評価	コメント	
1	Ⅰ　健全育成	規範意識や他人への思いやりなど豊かな心を育む教育の推進	自己肯定感・自己有用感の醸成	人との関わり合いを大切にしながら、児童が自信とやる気をもって未来を切り拓くために、自分を大切にする とともに、相手を認め、尊重する態度を育成する。	積極的に児童を具体的な姿でほめ、認める態度を示すことができる。	①児童の良い点や頑張ったことをほめていたか。 ②進んで活動をすることを通して達成感をもたせたか。	満足・おおむね満足が A：80%以上 B：60%以上 C：40%以上 D：40%未満	A	A	A	・校長・副校長先生を中心に教職員の方々のまとまりが感じられます。 ・先生方のチームワークで子供たち一人一人の自己肯定感、自己有用感について子供たちにわかりやすく教えている。生き抜く力を学ぶことへのサポートを引き続きお願いします。 ・相手がいやだと思うことはいじめなのだと明確に伝えていただき、子供たちのいじめの認識が深まっている。 ・「運動できるようになると楽しい」先生方自らが実技研修を重ね、子供たちも挑戦することにつながったことは素晴らしいです。 ・先生や親に褒められるともっとがんばろうという気持ちが芽生え自信につながる。タイミングよく褒めることが大切。 ・いじめの対応については、安心して話せる環境づくりができている。 ・急激に進んでいるICT機器の活用専門の指導教諭の導入を推進できたらよい。高学年は特に端末を使いこなしている。 ・学力向上に向け教員同士が話し合う場を多くもってほしい。特に国語の指導に力を入れる必要がある。 ・日本の文化の良さ、素晴らしさをさらに深めご指導いただきたい。 ・学年ごとに外部人材により興味のある講話を実施していただいている。 ・コロナ禍で防災体験、しめ縄づくりが3年間できなかったが、「花いっぱい運動」では1年生全員と植栽ができた。 ・子供たちの元気な姿がとても素晴らしく感じています。	次年度も、全教育活動を通じて児童の豊かな心の育成に努める。特に、学習指導要領に示される育成すべき資質・能力の3つの柱のうち、「学びに向かう力・人間性等」についての育成に力を入れる。具体的には「あきらめずにやり抜く力」「他者とつながる力」「進んで伝えようとする力」を育成することを全教員が意識するとともに、各活動後の振り返りの中でそれぞれの力について児童の伸びを褒め、価値付ける。
2	Ⅰ　健全育成	いじめ問題への対応	規範意識と豊かな人間関係を育む教育	児童がいじめへの認識を深め、いじめに関する意識 を変え、いじめ問題を主体的に解決しようとする態度を身に付けさせる。	「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」とすべての児童が明言できる。	①安心して話した り相談したりできる児童との人間関係づくり ができたか。 ②一小「伝えてみようあなたの心配」を実施し、活用できたか。	満足・おおむね満足が A：80%以上 B：60%以上 C：40%以上 D：40%未満	A	A	A		校内いじめ対策防止委員会を中心として、各学級担任が学期に1回のアンケートや児童一人一人への聞き取りなどを組織的に行い、いじめの早期発見・早期対応に努めている。校内いじめ防止基本方針を次年度に向けより実態に即したものに改定した。学校HPに掲載しているが、これを年度当初の保護者会において改めて周知する。そのことにより保護者と学校が連携してより確実ないじめの早期発見・早期対応に努める。また、ソーシャルスキルやアンガーマネジメントなどの啓発によりいじめの未然防止にも努める。
3	Ⅰ　健全育成	生涯にわたって育む健やかな体づくり	体力向上に関する指導の充実	健全な心の発達・成長とともに健やかな体を育むために、運動に親しむ習慣や意欲、体力づくりへの意識を向上させる。	運動が好きという児童を増やす。そのために、適切な生活習慣や食習慣の定着を図る。	①外遊びの推奨に取り組んだか。 ②マラソン月間、なわとび月間などにより運動の楽しさを味わわせられたか。	満足・おおむね満足が A：80%以上 B：60%以上 C：40%以上 D：40%未満	B	B	A		今年度は、市の研究奨励校の指定を受け、体育科の校内研究に取り組み、『「できると楽しい！を実感し、進んで運動する児童の育成』をテーマに市内小中学校にその成果を発表することができた。器械運動において技ができるようになるための場の工夫や、友達との協働的な学習における成果があった。また、体力調査においては、柔軟性・跳躍力の伸びがみられた。次年度は、別の領域について同様の取組を実施し、さらなる児童の体力向上と「進んで運動する児童の育成」を目指す。更に食育についても力を入れていく。
4	Ⅱ　学力向上	確かな学力の育成	基礎的・基本的な学力の定着と学ぶ意欲の向上	朝のモジュール学習など基礎学力の補充の機会を充実させ、「やればできる」という達成感を もたせる。	朝のモジュール学習など基礎学力の補充の機会を充実させ、「やればできる」という達成感を もたせる。	①「楽しい、分かった、なるほど」という実感を児童がもてる授業を行ったか。 ②一人一人に応じた課題をドリル学習で積み重ねたか。	満足・おおむね満足が A：80%以上 B：60%以上 C：40%以上 D：40%未満	A	B	A		6年生の全国学力・学習状況調査、4，5，6年生の東京都の意識調査において、理科については全国平均を上回る設問が多く、「理科が好き」「理科が得意」「理科に関する職業に就きたい」などの結果となった。一方、国語、算数においては全国平均を下回る項目が多かった。次年度は、国語・算数の基礎・基本の定着に力を入れていく。そのために朝のモジュール学習をはじめ個別の補習、GIGA端末端末の活用も踏まえた家庭学習の定着などに取り組んでいく。
5	Ⅱ　学力向上	確かな学力の育成	ICT機器活用等による多様な指導方法の工夫	一人1台端末を活用して、調べ学習やドリル学習などの個別最適化された学習を推進する。	全学級で、一人1台端末を活用した授業展開が三割程度できるようにする。	①いずれかの教科で一人1台端末を活用した授業展開ができたか。 ②ICT機器や端末を活用して児童の思考力・表現力・判断力の育成を図ることができたか。	満足・おおむね満足が A：80%以上 B：60%以上 C：40%以上 D：41%未満	B	B	A		保護者アンケートからも、今年度のGIGA端末の活用状況は昨年度と比較して、満足している等の肯定的回答が約2倍に増えた。日常的に持ち帰りができるようになり家庭での調べ学習や文書等のまとめにも活用できている。また、授業中の活用も多岐にわたってできるようになっている。次年度は、eライブラリ等の家庭学習での活用推進を含め、端末搭載ソフトを活用した授業の実践事例等を教員間で研修し合い、より幅広く活用できるようにする。
6	Ⅱ　学力向上	確かな学力の育成	英語教育と国際理解教育の推進	英語を使ってのコミュニケーションに慣れ、英語を使ってすすんで表現しようとする力を培う。	年間計画に即して、高学年70時間の外国語、中学年35時間の外国語活動を規定通り実施し、英語を使ったコミュニケーションに親しむ。。	①年間指導計画に即して、ALTの力を借りながら担任がメインティーチャーとして授業を進めることができたか。	満足・おおむね満足が A：80%以上 B：60%以上 C：40%以上 D：40%未満	A	A	A		今年度は、ALTを活用した外国語、外国語活動の授業を学校公開等で保護者にも参観していただく機会が増えた。そのため学校の授業で学んだことを家庭で保護者と共有したり活用したりする機会もできたと考える。高学年が実際に外国の方と学んだ英語を使ってコミュニケーションを取り合う学習等も実践できた。次年度は、そのような授業の好事例を教員間で共有し、児童が、英語を活用したより必然性のあるコミュニケーションがとれるような授業づくりを推進していく。
7	Ⅱ　学力向上	確かな学力の育成	教員の授業改善、指導力の向上の推進	教員一人一人が、主体的・対話的で深い学びのある活動を取り入れた授業力を身に付け、児童にとって、わかる授業を目指す。	教員一人一人が、ねらいや学習内容を明確にした「分かる授業」を日常的に行う。	①ねらいや学習内容を明確にした「分かる授業」を実施することができたか。 ②学期に1回以上、自分の授業を他の教員に公開し、助言を求めたか。	満足・おおむね満足が A：80%以上 B：60%以上 C：40%以上 D：40%未満	A	B	A		今年度は、体育科の校内研究を通して、教員が自主的に何度もOJT研修を重ねたり、教材や場の工夫などを検討したりと、充実した研修ができた。次年度も、体育科については継続して、また、国語や算数、理科、外国語、特別支援教育など他教科・領域にわたって教員それぞれの得意分野を全教員で共有できるようにしていく。そのための時間確保に努める。そしてそれが随時児童に還元できるようにする。
8	Ⅱ　学力向上	日本人としての自覚と豊かな国際感覚をもつ人材の育成	伝統と文化の理解の推進	日本人としての自覚と誇りをもち、世界の中の日本の役割について興味・関心をもち主体的に学ぶ態度を養う。	学校2020レガシーとして、日本の伝統文化に関わる活動を実施し、日本人としての自覚と誇りを醸成する。	①日本の伝統文化に関する学習を各学年の発達段階に合わせて、年間2回以上実施できたか。	満足・おおむね満足が A：80%以上 B：60%以上 C：40%以上 D：40%未満	A	A	A		今年度は、主に音楽の授業の中で日本の伝統文化・伝統音楽について扱うことができた。和楽器の演奏者を招いた鑑賞の授業も行った。また、運動会の表現では4年生が花笠音頭に取り組み、民舞の良さを味わうことができた。食育として東久留米産給食について、おせち料理についてなどの学習もできた。次年度は、地域の方々で伝統芸能や手工業に携わる方々などを招聘し、より幅広く日本の伝統文化に触れさせたい。また、百人一首などの伝統遊びにも取り組ませる。
9	Ⅲ　教育環境の整備	各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進	地域や外部人材を生かした体験活動の充実	地域の教育資源を活用しながら、教科横断的な学習に取り組み、地域を大切にする心情を育むとともに、主体的・対話的で深い学びにつなげる。	地域の教育資源や外部人材を活用した教科横断的な授業を積極的に実施する。	①地域の教育資源や外部人材を活用した教科横断的な授業を年間2回以上実施できたか。	満足・おおむね満足が A：80%以上 B：60%以上 C：40%以上 D：40%未満	A	A	A		今年度は3，4年生で落合川の学習や障害のある方々のお話。車いす体験や高齢者体験などができた。5，6年生は地域の食堂や商店に出かけ残食量を調べたり、様々な職業の方を招いて第一小学校の歴史や、キャリアについてのお話などを伺ったりすることができた。地域の団体による理科実験教室や禁煙キャラバンや学校薬剤師によるたばこや薬の授業もできた。次年度は、低学年にも地域の方を招聘したむかし遊び等の学習をしたり、地域にお住まいの様々な技術や経験をもつ方にお話を聞くなどより多くの活動が展開できるようにする。
10	Ⅲ　教育環境の整備	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実	障害の状況に合った、特別支援教室の指導の充実と、適正就学を実施する。	障害の状況に合った、特別支援教室の指導の充実と、適正就学を実施する。	①特支校内委員会を中心に、全校体制で支援に取り組んだか。 ②支援計画・支援ファイルを活用し個々に合った指導ができたか。	満足・おおむね満足が A：80%以上 B：60%以上 C：40%以上 D：40%未満	A	A	A		今年度、特支コーディネーター、ポプラ教室の巡回教員、担任を中心に、児童一人一人の特性や困り感に寄り添った特別支援教育の在り方について議論したり情報共有したりすることができた。次年度は、巡回教員と担任が協力して、障害や特性に対する理解を深める啓発授業を実施し児童や保護者の理解を深めることで、差別や偏見なく、個別最適化された学びが安心してできるようにする。